【樹木の部屋】

ドロノキ（ヤナギ科ヤマナラシ属　Populus suaveolens）

和名：ドロノキ（泥の木）　別名：ドロヤナギ、ドロ、ワタドロ、ワタノキ他

英名：Japanese Poplar、

キントラノオ目　落葉高木　　原産地：日本、アジア東北部

花言葉：　　花の色：

← 写真-１　ドロノキの樹形
撮影日：2014 年 06 月 24 日
撮影場所：フェアバンクス
（アラスカ）にて
撮影者：Ｍ　さん

←↗ 写真-２、３　ドロノキの花
撮影日：2014 年 06 月 24 日
撮影場所：フェアバンクス
（アラスカ）にて
撮影者：Ｍ　さん

← ↓写真-４、５　ドロノキの幹と葉
撮影日：2014 年 06 月 24 日
撮影場所：フェアバンクス
（アラスカ）にて
撮影者：Ｍ　さん

フェアバンクス（アラスカ）郊外のレストランで見かけました。昼食後、レストラン内の庭を散策中に、まるでケムシが垂れ下がっているような、異様な光景が目に入りました。よく見ると、綿毛に覆われた花？・・。珍しさも手伝って、カメラに納めました。帰国後、調べた結果、ドロノキと解りました。

綿毛に覆われているのは種子で、若い木の表面には菱形の皮目があり、雌雄異株。ヤナギの仲間と同様、風や水の流れを利用して拡散するそうです。

火山活動などによる植生破壊後に真っ先に樹林化する先駆種で、折れて地面に落ちた枝から根を張ってクローン個体を再生する、落枝条更新と呼ばれる能力を持つそうです。極端な陽樹で、光合成効率の良い葉は老化も早く、夏の終わりには落葉を始めるそうです。

軽軟材ですが、加工するノミや鉋の刃の傷みが堅木より早いと言われ、実際に機械で測定するとミズナラの数倍の速度で工作機の切刃が磨耗することがわかったそうです。「泥の木」の名称はこの奇怪な性質が根から泥を吸い込むせいとされたからとも言い、また泥のように柔らかいからとか、使い道が無いからとか、北海道の方言から等の諸説あるそうですが、その信憑性は不明だそうです。

＜ちょっと一言＞

学名 Populus maximowiczii 分類ヤナギ科ハコヤナギ属で表示されている書籍もあります。